（1）主題名　男女の協力　〔小学校高２－（３)〕
（2）ねらい　男女互いに信頼し友情を深め，協力しあって生活しようとする態度を育てる。
（3）資料名　「男のくせに女のくせに」（出典：みんなで考える道徳６年 日本標準 平成 11 年度版）

資料の概要
近頃「ぼく」たちの学級はおかしい。女子は女子，男子は男子で意見が固まってしまい，男女で対立してしまう。前はこんなことはなかったのに……。それにはこんなきっかけがあった。サッカー大会のチームを編成するとき，女子が「わたしたちも入れて」と言ってきた。「女のくせに」「女らしくないぞ」……そんなことを「ぼく」たちが言ってしまってから男女の対立が始まったのだ。先生の提案でこの問題について話し合いをもつことになった。友だちの意見を聞きながら「ぼく」はこのままの関係ではいけないと思い，勢いよく手を挙げた……。

（4）　学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　異性について考える。	○異性に対してのアンケートの結果を見てみましょう。	○異性についてアンケートしたものを提示する。（※参考：「心のノート」中学校版 P.51）
展開	2　資料を読んで対立した経緯について話し合う。	○男の子と女の子が対立することになったのはなぜでしょう。 ・○○のくせに，と決めつけた言い方をした ・お互いにけなしあった ○今のままではいけないと思っているのに対立しつづけているのはどうしてでしょう。 ・きっかけがない ・素直に気持ちが言えない	○「自分がそんな言われ方をしたらどうかな」と問いかけ，対立したきっかけを考えさせる。 ○仲良くしたいのだけれどうまくそれが言い出せないでいる状況をつかませる。
	3　「ぼく」の提案を考えることをとおしてどのようにしていくことが大切か話し合う。	◎いきおいよく手をあげた「ぼく」はみんなにどんなことを発表したのでしょう。書いてみましょう。 ・男女みんな仲良くしていこう ・決めつけた言い方はやめよう ・お互いの気持ちを大切して話し合うことが大切だ	○ふきだしを書いたワークシートを用意し，「ぼく」の気持ちを出し合う中で，男女仲良くするために大切なことを考えさせたい。
	4　自分たちの生活を振り返る。	○仲良くしたり協力したりしてよかったという経験はありますか。 ・休憩時間に一緒にドッチボールをしていて楽しい ・協力して運動会を盛り上げた	○自分の生活を振り返り仲良くしたり，協力したりできてよかったという思いを思いおこさせる。
終末	5　教師の説話を聞く。	○男女とも協力しあうことが大切ですね。 ・つい意識してしまうこともあるけれど，仲良くしていこう ・みんなで協力していこう	○男女ともお互いの存在を意識しがちなものであるが,違いを尊重し協力し合っていこうという意欲を高める。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

男女の対立について考えることを通して協力の大切さに気付かせていく資料である。「女のくせに」「男のくせに」といった偏見をもった発言から対立へと発展してしまったクラス。このままではいけないと話し合いをもつという設定である。

話の展開については，児童に理解しやすいものであるが，この資料の中のサッカー大会に女の子を入れるか入れないかで対立するという場面設定は，児童の実態により多少違和感があるかもしれない。しかし，対立はしないまでも，なんとなく素直になれない気持ちには共感をおぼえる資料である。そこで，対立の設定をクラスの状況に応じてより身近な場面設定に改作して使用するなどの工夫をすることで，より児童の心情に迫ることができる資料と考える。

２　指導過程の工夫

導入で提示したアンケートの結果（※「心のノート」中学校版Ｐ.51）は児童をひきつける導入としては効果的であった。

また，対立の状況を把握させておいて，中心発問である「ぼく」のこれからのクラスをよりよくしていこうとする発言を考え，そして，最後に自分たちのクラスを振り返るという展開は児童にとってスムーズな展開であった。

ふだん何気なく接している異性について意識し，自分たちのクラスと比較しながら考えていくことで考えが深まった。

３　発問の工夫

できるだけ資料の登場人物の心情に迫らせるため，対立の場面では「自分がそう言われたらどんなことを感じるだろう」と補助発問し，ちょっとした言葉がきっかけとなり，相手を不快な思いにさせ，それが対立へと発展したことに気付かせていった。

中心発問において「ぼく」の発言を考える際，考えを出しにくい児童には，「ゆきこさん」の「このままではよくない」という発言に着目させ「『ゆきこさん』の発言について『ぼく』はどう思っているのかな」と問いかけ，考えを出しやすくさせていった。

４　児童の反応

意識しがちな異性との関わりについて考えていく内容展開で，子どもたちは興味関心をもって授業に参加できた。

自分たちの生活をふりかえる際には「自分たちのクラスには対立がないからよかった」「いやなことを言ってしまったらすぐ謝って仲良くしたい」などの発言が聞かれた。

５　授業後のフォローアップ

授業後，授業で使った資料やワークシートを教室に掲示しておくことで道徳の時間で考えたことを振り返ったり，あらためて異性について考えたりするきっかけにしていった。また，学級活動や行事をとらえて，協力することの大切さについて考える機会をもつことでより効果が高まると考える。

（本地小学校）